

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立成名小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	○研究主任 ○担任	○算数を中心にした授業改善	○年度内	○算数を中心に適応問題を用意。なるべく多くの適応問題を授業で行う。 ○げんぼプリントや問題データベースを活用して復習や補充をする。 ○小テストを定期的に行い、理解度を確認して、個別対応を実施。(放課後学習など)	○来年度の学力テストで、県の平均点を上回る。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	○生徒指導主事 ○担任	○家庭学習の時間の定着 ○メディア時間の縮小	○年度内 ○初回は6月(毎月1 回程度)	○インターネットモラル教室の開催 ○にこにこ成名っ子カードで目標を設定し、結果をカードに記入することで成果・頑張りを評価していく。	○スマホ等メディアへの接触時間が2時間以内となる児童を9割にする。 ○宿題を含めた家庭学習の時間が学年目標時間を達成する。9割。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語・算数ともに全校・県の平均正答率と比べ高い、特に算数は、全校に比べ4.4%高い。 ○算数の中で、計算の仕方の工夫、グラフの読み取りは正答率が90%を超えていた。 ○国語・算数ともに、記述問題の無回答率が5.6%と低い数値であった。 ○同音異義語の漢字の正答率が県・全国と比べて低かった。 県(小学校3～5年) ○国語において、漢字の読みは3～5年ともに正答率が90%と高かった。 ○算数では、図形の領域の問題が他の領域に比べて高かった。 (3年生) ○国語は「話すこと・聞くこと」「言語」の領域が県平均と比べると上回り「書く」領域は下回った。 ○算数は、「量と測定」「図形」の領域が県平均を上回った。活用問題は県平均を下回り、特に記述問題が低い。 (4年生) ○国語、算数ともに県平均を上回る。特に、活用問題の正答率が高い。 ○算数では、「図形」の領域が特に正答率が高い。 (5年生) ○国語は、「読む」領域はほぼ県平均に近い数値であった。領域の中で特に「書く」領域が低い。 ○算数は、特に「数量関係」の領域が県平均を下回っている。	【学習状況調査の結果】 ○平日、家庭学習の時間が1時間以上の児童の割合が61.2%であり、全国平均66.1%を少し下回っている。しかし、家庭学習を計画を立てて学習していると答えた児童の割合が61.6%と高く、日々効率よく取り組んでいる児童が多い。また、家庭学習をしない児童は0%で全国に比べて高い。 ○「自分にはよいところがある」と答えている児童が55.6%で、全国に比べて17%高い。昨年5年生時の調査でも高い数値であった。「どちらかといえばある」の肯定的な回答まで含めると、約90%と高い数値である。 ○「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童は、83.3%で、全国平均に比べて、8.3%高い数値となっている。 ○H30、5年生時では、テレビ、ゲームなど視聴している時間が1時間以上の児童が75.1%で、県平均より、3.5%低い数値であった。中でも、1時間以上2時間未満の割合が最も高く、31.3%であった。今年度学校内調査では、1時間以上の視聴が75%と同等の数値であるが、1時間以上2時間未満の児童が増え、61%であった。 ○「きまりを守っている」と答えた児童は77.8%で、どちらかといえばの肯定的な回答を含めると100%である。全国に比べて、31.1%高い。 ○「学校に行くのが楽しい」と答えた児童は、66.7%で、どちらかといえばの肯定的な回答を含めると100%である。全国に比べて、12.8%高い。 ○「地域の行事に参加している」と答えた児童は、72.2%で、全国より、35%高い。 ○「将来に夢・目標を持っている」と答えた児童は、38.9%で、全国に比べて、27%低い数値である。
成 果	課 題
○全国学力の過去問を繰り返し行ったり、日々の授業の中で「ふりかえり」の記述を徹底して指導したりすることで、記述問題に対して取り組み意識、書く表現力に成果が見られた。 ○朝学習・補充学習で言葉の力をつけるプリントや漢字の小テスト等を定期的に取り組んだ成果が見られた。 ○5年生の国語の「読む」領域では、昨年県平均を4.2%下回っていたが、今年度は県平均に近い数値で向上している。国語の関心・意欲・態度も昨年に比べて向上している。 ○4年生の数「量と測定」の領域では、昨年度は県平均を下回っていたが、今年度は県平均を上回り向上している。算数の関心・意欲・態度も昨年に比べ向上している。 ○「数と計算」「図形」の領域の向上は、問題データベースの活用、放課後学習、デジタル教科書等によるICT活用が、学習内容の定着に関係していると思われる。	○1時間以上の家庭学習時間が定着できるように、課題の内容、自主学習の仕方など、学校全体での指導の取組を明確にする。 ○算数において、算数用語を正しく用い、与えられた条件を満たして記述することが課題である。 ○「書くこと」の領域の正答率が低い学年がある。 ○文章で解答する問題に対しての正答率が低い。キーワードの条件や字数制限のある文章を書くことに対してのトレーニングが必要。 ○問題形式に不慣れで解答時間が足りず、後半の問題の無回答率が高い。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
学び合いの視点を持った授業改善	年度末	学校生活アンケートで話し合い活動が好きだと答える児童の割合70% 自力解決の時間を設けて自分の考えを持たせ、全体・グループで学び合いを行う授業づくり。(算数を中心に)	授業の中で考えを書いたり伝え合ったりする時間を多く取り入れる。 学年に応じて書く力をのばしていけるよう、スキルアップ表を活用する。 学び合い授業について校内研修で共通理解を図り、研究授業で評価し合う。					
基礎基本の徹底	何度末	当該学年の基礎基本問題(独自作成プリント)において平均正答率85%以上	授業や放課後補充学習等において、前学年までの学習内容の定着(問題プリント集購入)および当該学年の学習内容の定着(小テスト等)を図る。					
家庭学習の定着と充実	年度末	1日あたりの学習時間が目標値を上回った児童の割合90%	家庭学習カレンダーを活用する。 にこにこ成名っ子カードを活用する。 全校で自学ノートの紹介等を行い自主学習を推奨する。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○笑顔で挨拶に取り組む。 ○掃除を時間いっぱい行い、落ち着いた学校づくりをめざす。 ○各校で家庭学習時間を増やすための取組を行う。 ○チャイムスタートに取り組む。	○「にこにこ成名っ子カード」による生活習慣の改善を図る取組への理解と協力を得る。 ○家庭学習スタンダードや資料を配付して懇談や総会など保護者が集まる機会を利用して協力を求めている。 ○メディア・SNSのつきあひ方について、保護者の講演会を実施して啓発を図る。